

2025 年度チャレンジ育英制度 (論文奨励)募集

チャレンジ育英制度論文奨励の応募を

2025年9月8日～9月26日で受け付けます。

今年度の論文テーマは、以下の5種類です。 ※詳細は別紙を参照

- ① 『文教大学への提言』
- ② 『インターネット上の情報とその信頼性について考える』
- ③ 『未来のデジタル社会に向けた大学生活で習得すべき知識や能力及び経験について』
- ④ 『コメの高騰とコメ不足の解消について』
- ⑤ 『免許の返納と公共交通機関』

文教大学生として日頃の研究活動や勉学の成果、体験した意見・抱負を論文として表現することを奨励し、採用者には、育英金(上限10万円)を給付する制度です。
少しでも興味のある方は、越谷学生課または湘南・東京あだち教育支援課HPをご確認ください！

越谷学生課 HP



湘南教育支援課 HP



東京あだち教育支援課 HP



【給付金額】

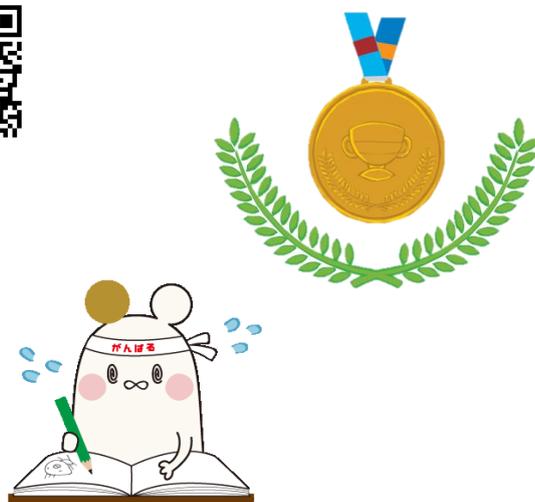
最優秀賞：10万円

優秀賞：5万円

佳作：2万円

努力賞：5千円以内

※採用数は最優秀賞～努力賞まで合わせて10件以内です。



2025年7月2日
文教大学 学生委員会

2025 年度チャレンジ育英制度(論文奨励)論文テーマ

以下①～⑤のテーマから 1 つを選択し、5,000 字程度で論述してください。 ※複数に出願は不可。

①『文教大学への提言』

標記のテーマのもと、現在文教大学に存する課題について論じてください。なお、『文教大学への提言』とは別にサブテーマを設定し、論点は 1 つに絞ってください。

【テーマの例 (課題やトピック)】

魅力ある大学・キャンパスづくり、キャンパス間の連携、カリキュラム改善、地域連携や貢献、学生のマナー向上、課外活動参加率の向上など

②『インターネット上の情報とその信頼性について考える』

インターネットは膨大な情報を提供し、私たちの生活に欠かせない存在となっています。しかし、その情報には誤情報や偏った内容も多く、私たちがその信頼性を見極める力を持つことが重要です。特に、情報の出所や発信者の意図を確認すること、複数の信頼できる情報源を照らし合わせる必要があります。また、インターネット上の情報を適切に評価し、正確に活用することは、学問的な研究や日常生活においても大きな意味を持ちます。大学生として、どのようにインターネット上の情報を正しく評価し、活用していくべきか、その方法と重要性について述べてください。

③『未来のデジタル社会に向けた大学生生活で習得すべき知識や能力及び経験について』

私たちが暮らす社会は、著しい技術革新とともに人工知能などが現れ、高度なデジタル社会へと変貌を遂げています。このことは、利便性が高くなる一方で、これまで人間が担っていた一部の労働の代替となるなど、近い将来あるいは未来の経済や産業構造、労働市場の構造にも大きな影響を及ぼします。今後、どのような影響が予測されており、そうした変化に対応するためには、大学教育や大学生生活を通して、どのような能力や経験を身につけておくことが重要になってくるのでしょうか。また、そのための方策はどのようなものですか。これらについて述べてください。

④『コメの高騰とコメ不足の解消について』

昨年 10 月以降、国内でコメ不足と価格高騰 (5kg で 4000 円超) が深刻化しています。政府は備蓄米の放出で対応していますが、十分な効果は出ていません。背景には、長年の減反政策や食生活の洋風化による需要減、農水省の供給調整などがあります。これらに加え、インバウンド需要の急増と不安心理が現在の状況を招いたと考えられます。今後は、米政策の歴史、輸入対応、生活様式の変化、需給動向などを経済学の視点から分析し、効果的な対策について論考してください。

⑤『免許の返納と公共交通機関』

昨今、高齢者の運転による交通事故のニュースが絶えません。それを考えると一定年齢に達した時の免許返納が考えられますが、その場合、代替として公共交通機関が充実していることが必要です。しかし、地方ではバスやタクシーの本数や利便性が低く、自家用車が手放せない地域もあります。また、鉄道やバスの廃線、都会も含めたバスやタクシーの運転手の高齢化や成り手不足なども深刻化しています。免許の返納と公共交通機関の関係はどうあるべきか、そのバランスを考慮して述べてください。

*** 専門性を問うものではありませんが、必要に応じ、文献などを調べ、論文にまとめてください。**

- ・未発表作品に限ります。
- ・卒業年次生については研究論文-卒業論文と類似のものは認められません。
- ・新聞・雑誌・インターネット・書籍等から文章・考え・データ等をそのまま引用したり、あるいはそれらを自身の言葉でまとめて記述したりする場合は、必ず引用した出典を文中に明記し、文末に出典と対応とする引用文献リストを記載してください。引用したにもかかわらず出典を記載していない場合は、「盗作」とみなされます。

また、今年度から以下のような**審査基準**が設けられます。

- ①論理性：論理的に展開されているか、矛盾や飛躍はないか。
- ②妥当性・独創性：着眼点や思考内容、提案事項の妥当性と独創性。
- ③参考資料の妥当性：偏りはないか、信頼できるか、十分な数か（5以上）。
- ④論文の体裁・文章表現：引用表示、文献表示、文章表現。

評価観点	達成レベルと評価点				
	1	2	3	4	5
論理性	記述内容にまとまりがない	論理の展開に矛盾がある	論理の展開に飛躍がある	論理的に記述しているが、改善すべき点が複数ある	順序立てて論理を展開し、説得力がある
妥当性・独創性	記述内容が、課題とは無関係である	記述内容が課題との妥当性に欠ける	記述内容がありきたりで独創性に欠ける	妥当性あるいは独創性の面で改善の余地がある	課題をよく理解し、独創的で妥当な記述内容である
参考資料と根拠の妥当性	資料を全く参照していない、または根拠を示していない	参照した資料は相応しくない、または信頼性がない	参考資料数が不十分である（5未満）	5以上の資料を参考にしてはいるが、資料の質に問題がある	信頼できる、十分な数の資料を参考している
論文の体裁・文章表現	論文作成のルールを守っていない、誤字・脱字、文体の誤りなどが複数ある	論文作成のルールと文章表現に改善すべき点がある	引用・参照の仕方が適切でない	引用・参照の仕方に改善の余地がある	論文の体裁・文章表現が適切であり、問題はない

また、**ChatGPT** などの生成 **AI** を用いる場合には、作業を補助するためのみに使用すること。何らかの理由で、**ChatGPT** などの生成 **AI** を使用(*1)した場合は、使用して記載した文章等がわかるように明示(*2)すること。

*1：**AI** が生成した文章等を直接使用した場合だけでなく、文章等を組み替えた場合、表現を変更した場合、**AI** が生成した文章等の文意を変更しない場合、変更した場合のいずれのものも含む。

*2：明示方法を記載すること。（例：『』で括る、アンダーラインを引く等）

皆様のご応募をお待ちしています！！